

平成 19 年度

相模原市中沢財産区特別会計
歳入歳出決算審査意見書

相模原市監査委員

相模原市中沢財産区管理者
相模原市長 加山俊夫 殿

相模原市監査委員 田中 勝年

同 石橋 忠文

同 佐藤 賢司

同 落合 芳平

平成19年度相模原市中沢財産区特別会計
歳入歳出決算の審査意見について（提出）

地方自治法（昭和22年法律第67号）第233条第2項の規定に基づき、審査に付された平成19年度相模原市中沢財産区特別会計歳入歳出決算及び証書類その他政令で定める書類を審査したので、別紙のとおり意見書を提出する。

以 上

目 次

I	審査の対象	1
II	審査の期間	1
III	審査の方法	1
IV	審査の結果	1
V	審査の意見	1
VI	審査の内容	2
1	決算の概要	2
(1)	歳入	2
(2)	歳出	5
2	実質収支に関する調書	7
3	財産に関する調書	8

- (注)
- 1 文中に用いた金額及び面積は、単位未満は切り捨てた。
また、表中に用いた金額のうち千円単位については、原則として単位未満は切り捨てた。
 - 2 比率は、原則小数点第2位を四捨五入した。
このため、計数が一致しない場合がある。
 - 3 文中に用いるポイントは、パーセント間の単純差引数値である。
 - 4 各表中の符号の用法は次のとおりである。
「0.0」…… 該当数値はあるが単位未満のもの
「△」…… 収支不足額を示し、又は増減では減を示すもの
「-」…… 算出不能、該当数値のないものなど

平成19年度相模原市中沢財産区特別会計歳入歳出決算審査意見

I 審査の対象

- (1) 中沢財産区特別会計歳入歳出決算
- (2) 中沢財産区特別会計歳入歳出決算事項別明細書
- (3) 中沢財産区特別会計実質収支に関する調書
- (4) 中沢財産区特別会計財産に関する調書

II 審査の期間

平成20年7月1日から平成20年8月1日まで

III 審査の方法

審査に当たっては、中沢財産区特別会計の歳入歳出決算書、同歳入歳出決算事項別明細書、同実質収支に関する調書及び財産に関する調書について、それぞれが関係法令に準拠して調製されているか、決算の計数に誤りはないか、予算は適正かつ効率的に執行されているかなどを主眼として、関係諸帳簿及び証拠書類との照合等通常実施すべき審査手続により実施した。

IV 審査の結果

審査に付された中沢財産区特別会計の歳入歳出決算書、同歳入歳出決算事項別明細書、同実質収支に関する調書及び財産に関する調書は、いずれも法令に規定された様式により作成されており、記載金額等は歳入簿、歳出簿、証書類、財産台帳等と符合し、計数的に正確であると認められた。

中沢財産区特別会計の決算内容及び予算の執行状況等については、おおむね適正であると認められた。決算の概要等については、審査の内容に記述するとおりである。

V 審査の意見

相模原市は、重点施策の1つとして、自然と都市の調和に配慮した発展を目指し「人と自然が共生するまちづくり」を掲げているところである。

豊かな自然は、暮らしの中に安らぎと潤いをもたらすものであり、財産区財産は、この一翼を担うものである。

こうしたことから、財産区においては公益的役割を踏まえつつ、財産区財政の健全な運営に引き続き努められるよう要望するものである。

VI 審査の内容

1 決算の概要

決算額は、歳入112万円、歳出85万円で、歳入歳出差引額は26万円となり、翌年度へ繰り越すべき財源はないので、実質収支額も同額である。

決算額を前年度と比較すると、歳入は2,059万円（94.8%）、歳出は2,040万円（96.0%）の減少である。

なお、平成18年度決算は、昨年3月の合併に伴う財産区剰余金の受入れや多額の基金積立金など、承継に係る予算執行がそのほとんどで、通常の年とは異なったものとなっている。

決 算 の 状 況

(単位：円)

区 分	19 年 度	18 年 度	増減額	増減率
予 算 現 額	1,580,000	21,553,000	△19,973,000	△92.7
歳 入 決 算 額 A	1,120,324	21,712,168	△20,591,844	△94.8
歳 出 決 算 額 B	857,983	21,263,785	△20,405,802	△96.0
歳入歳出差引額 (A-B) C	262,341	448,383	△186,042	△41.5
翌年度へ繰り越すべき財源 D	0	0	0	—
実 質 収 支 額 (C-D) E	262,341	448,383	△186,042	△41.5
前年度実質収支額 F	448,383	—	448,383	皆増
単年度収支額 (E-F)	△186,042	448,383	△634,425	—

(1) 歳 入

(単位：円、%)

区分 年度	予算現額(A)	調定額(B)	収入済額(C)	不納欠損額	収入未済額	収 入 率	
						$\frac{(C)}{(A)}$	$\frac{(C)}{(B)}$
19	1,580,000	1,120,324	1,120,324	0	0	70.9	100
18	21,553,000	21,712,168	21,712,168	0	0	100.7	100
増減	△19,973,000	△20,591,844	△20,591,844	0	0	△29.8	0
増減率	△92.7	△94.8	△94.8	—	—	—	—

歳入における決算の状況は、予算現額158万円に対し、調定額112万円で、その全額が収入済となってい

る。

収入済額は、予算現額に対して45万円（29.1％）下回っており、予算現額に対する収入率は70.9％である。調定額に対する収入率は100％となっている。

また、これらを前年度と比較すると、予算現額では1,997万円（92.7％）、調定額及び収入済額は2,059万円（94.8％）の減少となっている。

財源別対前年度比較

（単位：千円、％）

区 分	決 算 額		構 成 比 率	
	19年度	18年度	19年度	18年度
自 主 財 源	1,120	21,712	100	100
依 存 財 源	0	0	0	0
計	1,120	21,712	100	100

（注）本表は、地方財政状況調査の分類方法を準用した。

収入済額を財源別に分類し比較してみると、すべて自主財源であり前年度と同じである。

第10款 県支出金

（単位：円、％）

区分 年度	予算現額(A)	調定額(B)	収入済額(C)	不納欠損額	収入未済額	収入率	
						$\frac{(C)}{(A)}$	$\frac{(C)}{(B)}$
19	1,000	0	0	0	0	0	—
18	—	—	—	—	—	—	—
増減	1,000	0	0	0	0	0	—

第15款 財産収入

（単位：円、％）

区分 年度	予算現額(A)	調定額(B)	収入済額(C)	不納欠損額	収入未済額	収入率	
						$\frac{(C)}{(A)}$	$\frac{(C)}{(B)}$
19	356,000	371,544	371,544	0	0	104.4	100
18	252,000	252,000	252,000	0	0	100	100
増減	104,000	119,544	119,544	0	0	4.4	0

収入済額37万円を前年度と比較すると11万円（47.4％）の増加である。これは、中沢財産区運営基金利子が7万円及び土地貸付収入が3万円増加したことによるものである。

収入済額の主なもの

・水源林整備用地貸付料

25万円

第20款 繰入金

(単位：円、%)

区分 年度	予算現額(A)	調定額(B)	収入済額(C)	不納欠損額	収入未済額	収入率	
						$\frac{(C)}{(A)}$	$\frac{(C)}{(B)}$
19	773,000	300,000	300,000	0	0	38.8	100
18	—	—	—	—	—	—	—
増減	773,000	300,000	300,000	0	0	皆増	皆増

収入済額30万円は、中沢財産区運営基金繰入金である。

第25款 繰越金

(単位：円、%)

区分 年度	予算現額(A)	調定額(B)	収入済額(C)	不納欠損額	収入未済額	収入率	
						$\frac{(C)}{(A)}$	$\frac{(C)}{(B)}$
19	448,000	448,383	448,383	0	0	100.1	100
18	—	—	—	—	—	—	—
増減	448,000	448,383	448,383	0	0	皆増	皆増

収入済額44万円は、前年度剰余金である。

第30款 諸収入

(単位：円、%)

区分 年度	予算現額(A)	調定額(B)	収入済額(C)	不納欠損額	収入未済額	収入率	
						$\frac{(C)}{(A)}$	$\frac{(C)}{(B)}$
19	2,000	397	397	0	0	19.9	100
18	21,301,000	21,460,168	21,460,168	0	0	100.7	100
増減	△21,299,000	△21,459,771	△21,459,771	0	0	△80.8	0

収入済額397円を、前年度と比較すると2,145万円(100.0%)の減少である。これは、預金利子が397円増加した反面、雑入の城山町中沢財産区会計歳計剰余金が2,146万円減少したことによるものである。

(2) 歳 出

(単位：円、%)

区分 年度	予 算 現 額	支 出 済 額	翌年度繰越額	不 用 額	執行率
19	1,580,000	857,983	0	722,017	54.3
18	21,553,000	21,263,785	0	289,215	98.7
増減	△19,973,000	△20,405,802	0	432,802	△44.4
増減率	△92.7	△96.0	—	149.6	—

歳出における決算の状況は、予算現額158万円に対し、支出済額85万円で、執行率は54.3%となっている。これらを前年度と比較すると、予算現額は1,997万円（92.7%）、支出済額は2,040万円（96.0%）の減少であり、執行率は前年度と比較すると44.4ポイント低下している。

不用額72万円は、予算現額の45.7%（前年度1.3%）である。

義務的経費・投資的経費の対前年度比較

(単位：千円、%)

区分 経費別	決 算 額		構成比率		前年度比		
	19年度	18年度	19年度	18年度	19年度	18年度	
義務的経費	288	0	33.6	0	皆増	—	
内 訳	人件費	288	0	33.6	0	皆増	—
	扶助費	0	0	0	0	0	—
	公債費	0	0	0	0	0	—
投資的経費	0	0	0	0	0	—	
そ の 他	570	21,264	66.4	100	2.7	—	
合 計	858	21,264	100	100	4.0	—	

(注) 本表は、地方財政状況調査の分類方法を準用した。

歳出決算額に占める割合をみると、義務的経費は33.6%で、前年度と比較すると33.6ポイント上昇している。

なお、「その他」の主な経費としては、物件費、積立金となっている。

第5款 議会費

(単位：円、%)

区分 年度	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額	執行率
19	269,000	243,352	0	25,648	90.5
18	8,000	0	0	8,000	0
増減	261,000	243,352	0	17,648	90.5

支出済額24万円は、主として議員報酬費22万円である。

第10款 総務費

(単位：円、%)

区分 年度	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額	執行率
19	1,085,000	614,631	0	470,369	56.6
18	21,265,000	21,263,785	0	1,215	100.0
増減	△20,180,000	△20,649,154	0	469,154	△43.4

支出済額61万円を前年度と比較すると2,064万円（97.1%）の減少である。これは主として、一般管理費が15万円及び造林振興事業費が11万円増加した反面、中沢財産区運営基金積立金が2,100万円減少したことによるものである。

支出済額の主なもの

- ・財産管理費 17万円
- ・一般管理費 15万円
- ・造林振興事業費 11万円

不用額の主なもの

- ・中沢財産区議会議員通常選挙費 45万円

第25款 予備費

(単位：円)

区分 年度	当初予算額	充 当 額	予 算 現 額	不 用 額
19	242,000	16,000	226,000	226,000
18	280,000	0	280,000	280,000
増減	△38,000	16,000	△54,000	△54,000

予備費の充当額は1万円で、前年度と比較すると1万円の増加である。

款別充当状況は総務費1万円で、中沢財産区運営基金積立金の費用に充当されたものである。

2 実質収支に関する調書

実質収支に関する調書に記載されている中沢財産区特別会計の計数は、次のとおりである。

実 質 収 支 額

(単位：千円)

会 計 区 分	歳入総額	歳出総額	歳入歳出 差 引 額	翌年度へ繰り 越すべき財源	実質収支額
中沢財産区特別会計	1,120	858	262	0	262

3 財産に関する調書

公有財産及び基金の異動状況は、次のとおりである。

財 産 の 状 況

区 分		単位	前年度末現在高	本年度中増減高	本年度末現在高
公有財産	土 地	m ²	198,601.00	0.00	198,601.00
	出 資 に よ る 権 利	円	210,000	0	210,000
基金	資基金積立金 中沢財産区運営基金	円	21,087,385	△220,256	20,867,129

(土地のうち山林の内訳)

(単位：m²、m³)

区 分	面 積			立木の推定蓄積量		
	前年度末 現在高	本年度中 増減高	本年度末 現在高	前年度末 現在高	本年度中 増減高	本年度末 現在高
山 林	198,601.00	0.00	198,601.00	—	5,714.93	5,714.93

(1) 公有財産

ア 土地

土地の年度末現在高は198,601m²で、前年度と同じである。

立木の推定蓄積量は年度末現在高5,714m³で、前年度と比較すると5,714m³の増加である。これは、立木の推定蓄積量を新たに把握したことによるものである。

イ 出資による権利

出資による権利の年度末現在高は、津久井郡森林組合出資金21万円で前年度と同じである。

(2) 基金

基金の年度末現在高は2,086万円で、前年度と比較すると22万円減少している。これは取崩しにより中沢財産区運営基金が22万円減少したことによるものである。